

## 認知度・関心度を高めるために

### 着眼点

利用促進のプロモーションが必要

- ・一回使った方にもう一回使ってもらえるように
- ・まずは一回使ってもらう

ターゲットによって方法を変える

### チラシ

- ・イベントのチラシ
- ・学校の生徒に配布
- ・自治会の掲示板

### 市の広報

- ・市の広報を見れば知れる

### SNS

- ・SNSで拡散されている
- ・若い人はTikTokなど

### ネーミング

- ・ネーミングの問題がある（勤労青少年ホームは実態に合わない）
- ・シープラはネーミングが良い
- ・わかりやすい表示、名前にするのが良い
- ・長い名前、わかりにくい名前は愛称に変える
- ・「長寿園」は高齢者向けに思える

実は…

- ・若い人も使える
- ・誰もいなくても開けておく必要がある

## 利用してもらう・満足度を高めるために

### 問題点 使える場所が少ない？

- ・なかなか予約できない
- ・習い事の人はずっと予約している
- ・そもそも場所が少ない
- ・1日3枠しかない。枠が少ない

### 解決策

- ・時間単位で使えるのが良い
- ・空き状況がわかるシステム
- ・システムで一覧できる仕組み

テニスコートはネットで申し込みできる

民間ノウハウ活用

誰が管理する？

### 課題

### イベント

- ・サークルのまつりなどうちわイベントになりがち
- ・年1回の発表は関係者だけでもったいない

### 解決策

- ・サークルが集まって交流するイベントにする
- ・展示会のようなもの、エキスポを開催
- ・泉大津の文化祭
- ・”サミット”、”エキスポ”

おづプラザの支援の機能

### 求められる施設

- ・予約しなくても使えるサロンスペース
- ・ミニシープラを作る

### 求められる機能

- ・Wifiは完備必須
- ・電源（充電用）
- ・防音設備
- ・小さい子供を連れた方が安心していける
- ・バリアフリーは絶対
- ・エレベーターは必要

テクスピア大阪のホールは車椅子用の席がない

### 地域交流ゾーン

- ・駐車場は必要
- ・子どもとの動線の分離
- ・わかりやすい動線
- ・安全確保⇒今でも警備員さんがいる

### 使い方

- ・時間帯の使いやすさ
- ・公共施設の空調の使える期間を柔軟に

- ・利用管理のIT化
- ・条例の壁

### 未利用者を巻き込む方法

- ・フードコートマルシェも一緒に出す
- ・サークルの当事者・関係者以外も参加できるイベント

認知度・関心の向上

## 情報発信

- 世代にあった広報（紙媒体(回覧板)・デジタル)
- 広報誌・情報誌
  - ・ 広報のプロからの意見を貰うのも一案である
  - ・ 市の広報の施設ページが減った
- インターネット・SNS
  - ・ SNSの活用（FB、LINE、インスタ、noteなど）
- 視覚に訴える
  - ・ 泉大津駅の電光掲示板活用（現状あまり活用出来ていない）
  - ・ 施設周辺にのぼり等を掲示
- 学校を通じた情報発信
  - ・ 学校だよりや配布物に盛り込んでもらう
  - ・ 学校からの発信には一定の信頼感があるのではないか
- 発信機会の拡充
  - ・ コンビニなど人が集まる場所での広報も検討出来ないか

## 活動に参加するきっかけ、雰囲気づくり

- 子どものうちから教育施設に関わる
  - ・ 学校を通じて子供たちに関われる場を紹介する
- 入りやすい、親しみやすい施設へ
  - ・ キャッチフレーズ等を募集し、親しみやすい雰囲気の醸成を図ってはどうか。
- 各種イベントの実施
  - ・ 世帯で参加できる行事等が実施されると良いのではないか
- 充実した運営体制
  - ・ 運営は指定管理にし、民間の企画スキルや運営手法を活用してもらってはどうか
  - ・ 市が管理や補修をするという安心感もある
  - ・ 教育施設自身から施設を使ってほしいというアピールがあった方が良い。（これまでは受け身の広報だったのではないか）

## 全体

- 住民ニーズの把握
  - ・ 住民はそもそも何を求めているのか？
    - 貸室・場所が必要なだけなのか？
    - 具体的に取組みたいことがあるのか？
  - ・ 誰が利用するのか？（ターゲット）
- 安全の拠点として
  - ・ 地域の安全を伝えることも重要
  - ・ 危険な場所やハザードマップの紹介
- サロン、コミュニティ形成の場
  - ・ サロンを通じてお互いの趣味に気づけるのでは
  - ・ 人が集まる施設（足湯など）

## 新たな施設整備

- 利用時間
  - ・ 利用時間はより柔軟になれば
  - ・ 既存の利用者が使える場所や時間の確保は大事
- 提供するプログラム
  - ・ 行政も知識や能力を持った人を探すことも必要。（そのような人にプログラムを担ってもらう）
- 人材育成
  - ・ 地域に根差す人材の育成や、施設の運営に関わってくれるような人材を育成する必要がある。

## 地域交流ゾーン

- 必要な体制・機能・設備など
  - ・ 学校には各種機能がそろっており生涯学習との親和性は高いはず
  - ・ 平日昼はどうしても利用の制約あり
- 地域への開放
  - ・ コミュニティスクールを軸に学校の一段の開放を検討して欲しい
- セキュリティ（学校）
  - ・ 地域交流ゾーンの利用予約などをしっかり整備
  - ・ 学校としてはセキュリティと情報管理が重要。（管理できるのであれば昼でもOK）

利用促進・満足度向上の工夫

認知度・関心の向上

## 情報発信

- **広報誌・情報誌**
  - ・ 生涯学習案内（クラブ・講座の一覧）を発行し、市役所や各施設へ設置してあるが、認知度は低い
  - ・ 市の広報誌が読みづらい
    - 読みたくなるポップなデザインの冊子や広報誌が必要
- **インターネット・SNS**
  - ・ SNSを使った広報 ※アカウントを登録してもらう工夫も必要
- **看板・掲示板**
  - ・ 泉大津駅の電光掲示板（目に付く機会が多い）
- **自治会**
  - ・ 自治会を通じた案内も有効か（特に高齢者）
  - ・ 自治会の回覧板（読まない人も多い）
- **発信機会の拡充**
  - ・ 様々な機会でも市民館について発信し、市民の親近感を高める

## 活動に参加するきっかけ、雰囲気づくり

- **子どものうちから教育施設に関わる**
  - ・ 子ども向けの講座、教室の充実
  - ・ 子育て世代向けのプログラムの実施
  - ・ クラブ活動への体験入会
  - ・ 空き時間の公民館の部屋を、子どもが自由に使えるよう開放する
- **地域交流ゾーンを使って、子どもたちへアピール**
  - ・ 学校内でクラブ活動を行い、活動のPR、身近な体験の場へ
- **入りやすい施設へ**
  - ・ 今の施設は入りづらい、アクティブに活動したい雰囲気ではない
- **「生涯学習」を分かりやすく**
  - ・ 「生涯学習の場」 → 「趣味づくり、遊び」等の表現に変える
- **高齢者の巻き込み**
  - ・ 普段外に出ない高齢者の方へどうアプローチできるか

利用促進・満足度向上の工夫

## 全体

- **身近な“公民館”が必要**
  - ・ 活動しやすい環境として、校区ごとに“公民館”のような場所が必要
    - 施設整備は時間がかかるので、すぐにできる対策も合わせて考えるべき
- **場所ごとの機能分担**
  - ・ クラブによって、必要な場所・設備は様々なので、学校ごとに機能を分担する方が効率的

## 運用ルール・体制

- **運営体制**
  - ・ 活動場所が増えると、管理する人も増える
  - ・ シルバーの方が関与できると良い
    - ※現在の地域交流ゾーンは、ボランティアの方が管理、施錠

## ハード面

- **必要な設備・スペース**
  - ・ クラブによっては、活動拠点に倉庫が必要
  - ・ 音楽系の活動を行う場所は防音設備が必要
- **バリアフリー**
  - ・ 地域交流ゾーンのバリアフリー化（エレベーターの設置）は必須
- **セキュリティ（学校）**
  - ・ 利用者全員を登録し、ICカードを使って入退場を管理する
  - ・ 入口や動線を分離する必要がある
  - ・ 特に、入口が分かれていないと、施錠の都合で夜間利用が困難に

認知度・関心の向上

利用促進・満足度向上の工夫

## 行くきっかけづくり

- **イベントの実施**
  - ・ 毎週／毎月決まった時間に定期的なイベントの開催（開催日の周知・定期的な来館促進）
  - ・ 有名人を呼んで興味を引く
  - ・ 色々な年代の方々の興味に合わせる
  - ・ 小学校低学年や幼児向けイベント（保護者の来館のきっかけに）
- **会合での利用**
  - ・ 会合などで積極的に利用を促す
  - ・ 自治会や役員会など

## 利用方法

- **様々な年代の市民が気軽に集まれる**
  - ・ 様々な場（自習、遊び、居場所）
  - ・ 憩いの場作り（軽食、パーティ）
  - ・ 各年代別で集える空間として利用（開放）
  - ・ 子どもと高齢者が共存できる
  - ・ サロンのような場所。新聞などがある
  - ・ いつでもだれでも気軽に集まれる
- **地域の人が活躍**
  - ・ 地域の人が活躍できる（登録、依頼）
  - ・ 宿題するところを見てくれる人、話を聞いてくれる人がいる
- **民間との連携**
  - ・ オシャレな雑貨屋さん
  - ・ オシャレなカフェ（民間OK）

## 情報発信

- **広報誌・情報誌**
  - ・ 市の広報で魅力的な記事を発信
  - ・ 絵を入れて見やすい記事に
  - ・ 情報誌を発行・配布（高齢者には紙媒体）
- **インターネット・SNS**
  - ・ HP（市、おづプラザ）
  - ・ SNS+チラシ（世代に合わせた情報発信）
- **ラジオ**
  - ・ FMラジオ（定期的に面白くPR）
- **看板・掲示板**
  - ・ 本日の催し看板の設置（中の様子がわかりにくい）
  - ・ 自治会、マンション掲示板
- **周知する内容**
  - ・ 施設の種類・場所、予約の仕方など

## 運用ルール・体制

- **運営体制**
  - ・ イベント、誰がやるの？組織or仕組み作り
  - ・ 人材確保→事務局を設置
  - ・ 利用者アンケート ⇒改善の仕組み作り
  - ・ アイデアがすぐに実行できる体制
- **各施設の役割分担**
  - ・ 各施設の役割・機能分担
  - ・ 教育娯楽に絞る
- **継続利用促進の工夫**
  - ・ 施設利用ポイント導入
- **明るい職員対応**
  - ・ 職員の明るく対応
  - ・ 年齢層様々な職員配置
- **柔軟な利用ルール**
  - ・ 利用ルール・条例が時代にあわない（手続に印鑑、冷暖房期間）
  - ・ 利用ルールの簡素化（ITの活用）
  - ・ 柔軟なルール作り
  - ・ 社会人も利用しやすい時間帯の枠
  - ・ 飲食可

## 入りやすい雰囲気づくり

- **きれいな外観**
  - ・ 外観を明るく
  - ・ SNS映えする
  - ・ 清潔感が大事
- **入りやすいイメージ**
  - ・ ネーミングは親しみやすい物に
  - ・ 「教育」は子どものイメージ
  - ・ 「教育施設」ではなく多目的な施設、年代間の交流の場、活動の場とする
- **利用者の雰囲気を良くする**
  - ・ 高齢者、年少者互いに認め合う

## ハード面

- **明るくゆったりした空間**
  - ・ きれいで明るい壁・床・トイレ（清潔感）
  - ・ 明るい雰囲気、広くゆったりした空間（シープラののような）
  - ・ 外から施設内が見えるづくり（心理的に入りやすくする）
  - ・ 使いやすくゆったりした倉庫
- **バリアフリー・防音**
  - ・ 段差なし、エレベーター（バリアフリー）
  - ・ 防音機能
- **立地**
  - ・ 海浜の利用、自然
  - ・ 自然環境の良い所にたてる

## 認知度・関心度を高めるために

ターゲットを絞って  
施策を行う必要あり

- ・話題性が必要
- ・使ってもらう  
きっかけが必要

- ・どこで何をやっている  
か知れるようにする
- ・いろいろなことが行わ  
れている

### 中学生

- ・特に中学生以下に向けて対  
応すべき
- ・中学生なら”地元”への愛着  
をもってもらえる
- ・公民館で自習している子供  
はいる
- ・今はシープラの自習室は使  
われている
- ・シープラの自習室はまだ小  
さいと思う

### 子育て世代

- ・親に連れられて子どもが将  
来自発的にいくようにする
- ・小さい子供は親と一緒に出  
掛ける必要あり
- ・親が行ける親が行動しやす  
い場所にする

### 主に高齢者向け

- ・チラシ
- ・市の広報  
⇒ 広報の情報は小さい
- ・広報は高齢者向けの媒体

### イベント

- ・公民館まつりで知る
- ・イベントに参加してもらっ  
て知ってもらう
- ・若い人のイベントと昔なが  
らのイベントは違う

### サークル

- ・サークル活動に参加するこ  
とで利用

サークル活動で親  
同士のつながりが  
できるのに期待

若いお母さん世代  
・アプリ、スマホ  
から情報収集

### デジタル

- ・市のLINE（全般）
- ・高齢者はLINEなど使えない  
人もいる

デジタルと  
紙のハイブリッド

## 利用してもらう・満足度を高めるために



良い雰囲気、  
明るい雰囲気

- ・視認性が高い
- ・外から中で何し  
ているか見える  
ガラス張り

わかりや  
すい動線

門が閉じら  
れていると  
入りにくい

### 施設

- ・安全な施設であることが必須
- ・子どもを連れて安心して遊べる場所
- ・子どもが集まるとき防犯対策も必要
- ・（地域交流ゾーン）地域の方が使うことで安全確保  
できる
- ・地域の方が登下校の安全確保をしている

### 設備

- ・バリアフリー ⇒ エレベーターは必要
- ・充電ができる必要あり
- ・ネット環境、Wifiは必須

### 使い方・管理運営

地域で管理運営する  
ことも必要では…

次回へ

## 前提：そもそものニーズ把握（本当に必要？）

- ・ 欲しい物、やりたいことをたずねる
- ・ 市民が何をしがっているのかをしっかりと把握する
- ・ アンケート結果から公民館と地域交流ゾーンのどちらも必要なのか？将来を考えて集約しておくべきでは

## 情報発信の内容・姿勢

### ●積極性

- ・ 積極的な情報の発信（何ができる、いつ使える）
- ・ 来る人は受け入れるが、外の方を呼び込むスタンスが必要
- ・ 何ができる、いつ使えるかをわかりやすく示す
- ・ 既にあるグループにも声をかけといて利用をするべきでは
- ・ 施設独自の広報ペーパーを作っては

### ●居場所の広報

- ・ 家でも学校（職場）でもない第三の場所という広報はどうか
- ・ 職場または学校と自宅ではない居場所作り

## 情報発信の手段

### ●インターネットやSNSの活用

- ・ インターネットで予約、利用方法、講座に関する情報がわかる（現地に行かなくても使うイメージがわかる）  
※阪南市の公民館はインターネット予約ができる

- ・ 若年層はSNS

### ●広報誌

- ・ 広報紙では情報がでるが、利用者向けの広報はないのか
- ・ 広報をどうやって伝えるか（広報紙だけでは伝わらない）
- ・ 予算の問題もあるが、公民館の取組などは市の広報位しか載せることができない。広報をしっかりと見る人は少ない（限られている）

### ●口コミ、その他

- ・ 口コミ、井戸端会議なども効果的
- ・ 施設の目的によって異なると思うが、施設のスタッフが外に出て施設をPRするような活動を行う

## どんな発想が必要か

### ●口コミや評判が伝わる

- ・ 口コミが広がる仕組みづくり（利用状況が知人から教えてもらえれば利用のハードルが下がる）
- ・ 既存の利用者がコミュニティスクール等に参加してクラブの内容を子どもや保護者に周知してはどうか
- ・ SNSだけでは足りず、それに口コミがあるということが大事

### ●使用しやすい制度設計

- ・ いつでも誰でもが利用できるという環境が理想（個人情報をもどのように考えるか）

### ●入りにくい雰囲気減らす

- ・ 現状では新規に入る（利用する）ことが難しい（一見さんお断りの雰囲気がある）

## 利用したくなる空間

### ●立地、場所

- ・ 公民館を人の集まる場所に移転する。おのずと利用状況が多く人に知られるのでは。
- ・ 老若男女が集える、参加できる場所があると良い。必ずしも施設である必要はなく飼育や栽培が出来る空間(畑や屋外空間)の活用等も想定できないか。

### ●利用用途

- ・ いくつかのコーナーにわけて多目的に使えると望ましい。

### ●地域交流ゾーンの活用

- ・ 最寄りの学校が地域交流ゾーンとして地域住民が広く出入りしやすい場所と思う。それを活かした利用法を考えていく。愛着もあるのではないか。
- ・ 今教員がやっている指導を地域と協働できるとよい（授業の栽培指導やスポーツ指導など）

## 現状・課題

- なぜクラブ会員が減っている？
- ・高齢者：健康上の都合、自治会長等の別団体で活動している方は忙しくて参加できない
- ・子育て世代：クラブの役員等を任せたくない
- ・新しくクラブに参加するのは心理的なハードルが高い
- 情報発信
- ・4月に、市の広報誌と合わせてクラブ一覧が配布されている

## 人を惹きつけるポイント

- 人が集まるには…  
「面白さ」と「お得さ」
- ・面白い活動・イベントなら、自分から動いて参加する+人にも伝える
- ・まずは知ってもらう機会を作ることが重要
- ・「広報誌を読んだ方限定！」等、お得感を出せる工夫を

## 具体的な取り組み案

- イベントの実施
- ・各施設を回るイベントの開催（なぞときイベント等）
- ・公民館の外で、クラブ活動の発表会を開催
- ・クラブの活動の様子を知ってもらうため、その場で市民が参加できるプログラムを提供
- ・泉大津市の市展を公民館で開催
- SNSの活用
- ・若者の活動の様子を、SNSを通じて発信
- 学校との連携促進
- ・学校の授業や活動に、公民館（クラブ）としてもっと関わるのが重要
- まちなかで活動の成果を発表～まちをアートで賑やかに
- ・クラブが発表できる場を街中に増やす
- ・アルザ3Fが寂しい→作品の展示の場として活用、美術系の学生と連携

## 拠点としてのあり方

- 小規模でも、使いやすい拠点が身近にたくさんあると良い
- ・地域交流ゾーンを活用するイメージ
- ・身近に、仲間同士で集まれる場所がない
- ・気軽に行けることが一番重要
- ・自治会では持てない機能を有した拠点が必要

## 必要な設備・スペース・機能

- 必要な設備・スペース
- ・防音設備
- ・地域の人が気軽に団らんでできるスペース
- 求められる機能
- ・小さい子どもを見てもらえる場はニーズが高い
- ・地域と学校が交流できる機会を増やしたい  
→（例）学校給食を一緒に食べる